

矢作川流域圏懇談会通信

R6 市民部会編 vol.1



発行日：令和6年6月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第18回市民部会WGを開催しました！

第18回市民部会WGでは、座長交代に伴うご挨拶と、今期前半（令和5年度）の活動の振り返りや今後の目標について意見交換を行いました。

今期前半（令和5年度）に実施した公開講座の振り返りと来期に向けた公開講座のテーマ決めを中心に行いました。



日時：令和6年5月20日（月）14:00～16:00

会議場所：豊田市職員会館2階 第1会議室

参加者：14名（内オンライン参加2名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. 座長交代に伴うご挨拶



光岡前座長の交代に伴い、新しく座長に着任された鈴木座長からご挨拶をしていただきました。今までは山部会を中心として活動されていましたが今期から市民部会座長としても活動されます。

2. 矢作川流域圏懇談会について



今年度最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立要旨・規約等について確認を行いました。

例年は年度末に実施する全体会議を区切りとして年度ごとの目標を設定していましたが、昨年度より11月に全体会議を実施しているため12月1日～翌年11月30日の1年を1つの期として整理することとしました。

今年度は設立から15年目ではありますが昨年（14年目）は中間報告会としているため、第14期の継続中となります。

第13期：令和4年4月1日～令和5年3月31日（昨期）

第14期：令和5年4月1日～令和6年11月30日（今期）

第15期：令和6年12月1日～令和7年11月30日（来期）

3. 今期前半（令和5年度）の活動成果について



令和5年度に実施した活動としては令和6年2月12日に開催した公開講座「川がつなく 私たちの未来～知らなかった山・川・里・海の繋がり～」、令和5年9月13～14日に地域部会合同でのバスツアーの開催結果の報告、懇談会を通じた新たなつながりについて報告しました。

4. 今期後半（令和6年11月まで）の活動目標について



令和6年2月12日に開催した公開講座について振り返りました。

今期後半では令和6年11月30日に開催される多摩川流域セミナーの他流域との交流や来期に向けて新たな公開講座のテーマの意見交換を行いました。主な意見としては、食と水田に関する問題、上下水道、環境問題に関連するテーマが出ました。

今期後半（令和6年11月まで）も、今期前半の活動目標と同様に①流域全体に関わる課題をテーマとした公開講座の実施、②地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーの企画・開催、③農業従事者や大学関係者など新たなつながりの拡大の3つを活動目標とします。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●今期前半（令和5年度）の活動成果について

- 令和5年度の活動として、令和6年2月12日に開催した公開講座「川がつなぐ 私たちの未来～知らなかった山・川・里・海の繋がり～」は流域のつながりをテーマに俯瞰的に捉えた流域の解説（講師：松沢孝晋氏、神田浩史氏）やディスカッションを行った。また、令和5年9月13～14日に地域部会合同でのバスツアーでは、地域部会間の共通認識の隔たりを補完することを目的として矢作川流域圏の団体や場所を巡るバスツアーを開催した。2日間で延べ32人が参加した。新たなつながりとしてオーガニック給食を推進するFood For Children 愛知とFood for Children 安城の関係者への取材やバスツアーへの大学生2名の参加、3つの流域連携イベント（2023年矢作川感謝祭、第25回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップin東北、第10回三河湾大感謝祭）に参加した。（事務局）

●今期後半（令和6年11月まで）の活動目標について

◆公開講座の振り返り（2月12日開催）

- 普段から飲んでいる水や生活に使う水はとても重要なもので、それらを流す先が海であること、そして、その海では貧栄養の問題になっていることを矢作川流域圏懇談会を通して知った。一般の市民の方も把握されていない方がとても多く、理解してもらえるように伝えていく必要がある。（鈴木）
- 公開講座で取り扱っている環境問題、流域問題、市民問題、生活の問題等については、最先端の内容となっている。今後も解決出来るかどうかではなく、次世代に受け継いでバトンタッチしていくために、必要な課題をテーマとしてとりあげることで様々なところで利活用もでき、反響も出てくると考える。（松沢）
- 一般の主婦の方が参加しており、その方々からは「一般の方々も視聴できる形で配信しており、多くの方に視聴していただく手法を考える必要がある」と意見をいただいた。生活と山・川・海をどうつなげていくかがとても重要である。（沖）
 - 流域のことを知っていただくために、小学校や子どもに伝えることで夕食時の話題になり、親世代にもつながるため、子どもにこういった取組や流域について知っていただくことは重要だと考える。（事務局）
 - 講演会等を実施すると30才代、40才代の子育て世代の方が多い。おそらく、子どもへの環境を考えて参加してくださっている。また、今は意識の高い学生が多いため、そういった学生たちに、我々しか見ていない里山の原風景を伝えていかなければならない。（松沢）
- 今後も、今期の活動目標として①流域全体に関わる課題をテーマとした公開講座の実施、②地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーの企画・開催、③農業従事者や大学関係者など新たなつながりの拡大の3つを活動目標として継続する。（事務局）

◆今後の公開講座の内容について

- 今期で公開講座を実施するのは難しいため、来期に向けて公開講座のテーマ・内容を決定する必要がある。（近藤）
- 食に関するテーマであれば、一般の方も視聴しやすいと考える。さらには、子どもの食生活を考えて安心・安全な学校給食を作ろうとしている団体の方もいるため、その方々も交えて話を進めていきたい。（沖）
 - 食というテーマに加えて、水田や農業といった話もすることでより流域としての意識が強くなる。（井上）
 - 環境を守るという視点よりも自分自身の食生活を守るという身近なものであれば一般の方々が視聴していただくためには良いと考える。（近藤）
- 山部会が主となって作成している事例集をきっかけに、多くの方が矢作川流域圏懇談会に関わっているため、公開講座の内容と事例集をセットで考えると、より多くの方に参加していただけるのではないかと。（近藤）
- 次回までに市民部会のメンバー内で議論した上で、7月を目途に市民部会で内容を具体化していきたい。（鈴木）

◆他流域との交流について

- 11月30日に多摩川流域セミナーに参加する予定である。他流域との交流を通じて新たなつながりを広げていきたい。（事務局）

●その他

- 今後は上下水道を国土交通省で管理していくということで、能登半島地震を例に挙げると、電気については上空の電線を通るため、回復が早かったが、水道については地下を通るため回復に時間がかかる。こういった問題にも目を向けていく必要がある。（井上）
- 人口減少が進んでいく中で人口増加を前提に作成された計画を考え直す必要がある。（近藤）

今後の予定

- 次回WG 日時：7月頃を予定

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

